資料６

第２回策定検討委員会　会議（部会別意見交換会）のまとめ

総務安全部会

◆防災に関して

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 東南海トラフ ● 避難所が手薄 ● 今、何かあった場合、対応できない	➔消防団、自警団等の充実＋ボランティアの充実確保 ・ＯＢだけでは少ない ・自助共助の充実、人材確保 ➔**感染症と自然災害の複合災害**への対応 ・従来の４倍必要など新しい視点 ・避難準備情報の活用方法 ・**空き家の活用**（借り上げなど）　トイレでの感染

◆救急体制

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 高齢者、老々介護の人をどう発見するか ● 救急件数は増加、65 才以上は半分	➔高齢者救急、設備施設対応 ➔日中流入者への対応、勤労・観光 ➔**10 年スパンで考える**→安心安全が見えない→誰もができる事をする ➔足らないので準備して欲しい→**行動変容**→**自分たちに何ができるかを考える**＝自助共助

◆交通安全対策

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 公共交通、安くすれば乗ってくれるわけではない	➔各団体との連携 ➔**通学は自転車から公共交通で** ➔危険箇所の地区の対応、舗装・照明は区で検証、優先順位づけ

◆防犯・消費者保護

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 周知のスピードが重要	➔菰野町のアプリの充実 ➔**情報の共有、共助により強化**

◆持続可能なまちのために

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 住民自治、皆が参加 ● 共助→日頃の地域のつながりが重要	➔町のお手伝い→**自分たちで支える** ➔自助・互助・共助・公助 ・もっと分かりやすい、アピールする表現、キャッチフレーズは？ ・**住民にどうおろしていくか** ・コロナで行動をかえていく時がチャンス ・会議と住民の意識が離れている

◆情報共有の推進

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 公式アプリ、プッシュ型配信 ● 使い方が分からない	➔高齢者のスマホ、民間のセミナー説明会でアプリを紹介 ➔情報共有の公民連携の方法、役場の役割、ソーシャルメディア教室 ➔アプリを入れるように広めるべき ➔めんどくさいけど簡単なまち ➔**「やらなあかんことをやってね」と伝える事が大事** ➔民間の社長を活用 ➔受益者負担→住民の選択

◆行財政・税収の確保

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 税収は確実に減る、すべての公共施設は維持できない ● 39 の区の中でも財政力に差、それをふまえた公助	➔地域格差を生まないようにする→**10 年先をふまえた施策** ➔入札の最低制限価格はなくすべき ➔利益がないと皆が悪くなる

◆人口減少化のまちづくり

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 行財政改革	➔**民間を入れて、効率化の仕組みづくり** ➔広域連携　公共施設のマネージメント、公民館の建設 ➔古い住民と新しい住民との不公平入区の条件→民間の会議室を開放 ➔関係人口の拡大による税収アップ ➔コロナによる在宅ワーク ➔ＩＴの活用

◆信頼される行政運営、危機管理体制

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 役場の職員の力は必須 ● **職員へのケアが必要**	➔横断歩道で止まる事を徹底→**なにか、成功体験をつくる**

環境産業部会

◆インター周辺の土地利用

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 働く場がないと人口増につながらない	➔企業・住宅の進出により、雇用創出につながる ➔核となる企業の誘致 ⇔ 町内の商店、町内に住み働ける環境 ➔菰野町の「顔」となるエリアに　菰野町を紹介できるインフォメーション→**企業と協同**
● 開発の足かせになる規制	➔**特区的な取り組み**があっても

◆持続可能な社会

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● バイオマスでやろうと思うと、菰野町のキャパでは難しい ● 太陽光発電は山を切開いてまではしなくてよい。山の保水力が低下してしまう ● 20 年経過した太陽光発電パネルの処理が大きな課題	➔再生可能エネルギー、温暖化への対応 ➔**風力を検討**してはどうか、景観は守りつつ

◆安全で安定した水道

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 経年劣化への対応が必要	➔更新にあわせながら耐震化

◆河川の氾濫対策

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 河川に砂がたまっていく。町としての対応は難しいのか	➔砂を資源として活用できないか ➔地域の中でできることは？　高齢化による担い手不足

◆観光

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 菰野町は観光のまち。外へ発信する施策が重要。 ● **今後は感染症ありき**がつづく。**これまでと違う集客環境になる。** ● インバウンド対応、観光業の世代交代に伴う外国人労働者	➔ものづくりや体験など（高齢者の活躍の場にも）と連携した観光→調整役は行政に期待 etc ・ホタルをみにいくオプション（今は夜いくところない） ・森林体験
● 町内の資源の整備がなされておらず、集客につなげられていない	➔町内に点在する観光資源をどうなげるか、連携していくかが大事
● 今は普通に売っても売れない時代、**体験を通じてものを買う消費行動**	➔まちの情報として発信 ➔アイデアは民間の方がすばらしい　行政はマッチングさせるのに長けているのでは

◆持続的な地域の発展のための森林

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
	➔元気な高齢者の活躍 ➔循環するように（人、お金など） ➔**エネルギーとしての木材利用**

◆農業

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 海外の農産品を売っていくには、**GAP 認証**をとっていくことも	
● 獣害は、このままでは 10 年後には大問題に	➔職員が狩猟免許を取って狩るのも手では　県内でやっているところも

教育民生部会

◆「子育て」について

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 若い世代が働きやすい環境	➔高齢者が支える＝活躍の場 ➔**働く世代が当事者意識をもつ**
● 子育ての希望を叶える	➔「見守り」は元気高齢者にお願いしたい←**「地域で支える」は、子ども・高齢・障がいも一緒** ➔子どもが育つ環境、子育て教育も地域で ➔子どもたちを地域に参加させる→子どもに愛着を持ってもらう
「子ども・子育ての計画」の中から ● 子育て世代の困りごと ● 「M 字カーブ」の谷がなくなる＝働くことが前提	➔保育園、学童、放課後デイなど ⇔ 子どもの視点も大切に、子どもを地域で支える
● 女性の就労率をもっと上げないと	➔女性の力を地域で生かす

◆「高齢者」について

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 福祉を支える人材(福祉も、介護も将来が不安)の涸渇の中でどうやって「支え合い」するか	➔健康であり、社会を支える元気な高齢者をふやす ・障がいのある人も、高齢の人も ・ノウハウを生かしたい ➔**IT・AI などの視点も入れる必要**
● 転換してきたが、コロナの中でどうやってシステムを構築していくか	➔地域包括ケアシステムの仕組みづくり
● 地域の中で見守りをどうするか？ ● 地域の中で相談の場など、うまく機能しているのか？ ● 窓口がバラバラしている→分かりづらい印象 ● 社協と役場で支えるのはムリ	➔入所施設や在宅医療の外は地域の人に→「ないものねだりでなくあるもの探し」を ・元気な高齢者 ・核となる人の背中を押すこと ・役割を細分化すれば担い手は居る

● 今後、人口が減る、高齢化も、外国人がふえる ● 団塊ジュニアの世代から拍車がかかる ● 世帯数の減少が始まる ● 今後 10 年間に地縁組織の体力が落ちる	➔自治会ごとに支え合いの「しくみ」をつくる ➔空き家、空き地対策→活用方法 ➔余力のあるうちにコミュニティの作り直しを

◆ **「健康」について**

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 「引きこもり」が増えてきた→生活困窮＝氷山の一角 ● アフターコロナの社会は「交流」がしづらく→「孤立」「引きこもり」に？ ● 今回「ひきこもり」予備軍ができた ● 「5080 問題」→**10 年後は「6090 問題」に**→今後、より顕在化する	➔心と体の健康　その人らしい健康→地域みんなで支える ➔まずは実態把握から→個別の支援が必要 ➔経済活動を希望する人には支援を ➔地域での居場所づくり

◆ **「障がい福祉」について**

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 親亡きあとを考える	➔グループホームのニーズに対応 ＝ ＮＰＯ、株式会社なども、親同士で立ち上げも ➔地域（自らつくる）やボランティアの組織化

◆ **「スポーツ、文化、生涯学習」について**

課題認識	今後持つべき姿勢、取るべき方策
● 絶対必要ではないが、「生きがい、健康」に役立つ ● コロナで活動できなくなり、「心」がすさぶ ● 関心のない人と差が大きい ● 文化面が他と比べて弱いのでは？	➔地域のつながりのきっかけに ➔啓発が大事 ➔「なくてはならないもの」「大事なもの」なのでは？ ➔気運の盛り上がりからハードに